

一九六六	(昭和41)	一九六五	(昭和40)	一九五九	(昭和34)	一九五八	(昭和33)	一九五七	(昭和32)	一九五六	(昭和31)	一九五五	(昭和30)	一九五四	(昭和29)	一九五三	(昭和28)	一九五二	(昭和27)	一九五一	(昭和26)	一九四九	(昭和24)		
一九六八	(昭和43)	一九六三	(昭和38)	一九六一	(昭和36)	一九五九	(昭和34)	一九五八	(昭和33)	一九五七	(昭和32)	一九五六	(昭和31)	一九五五	(昭和30)	一九五四	(昭和29)	一九五三	(昭和28)	一九五二	(昭和27)	一九五一	(昭和26)	一九四九	(昭和24)
一九七三	(昭和48)																								

- 日本学術会議会員となる。
- ガンの科学的治療法の研究に取り組む。
- 単行本「吉田肉腫」発刊される。
- ラットを使って、腹水肝臓ガンを発見する。
- 「吉田肉腫」の研究が昭和天皇の天覧を賜る。
- 「吉田肉腫の研究」で朝日賞を受ける。
- 東京大学教授になる。
- 佐々木研究所所長となる。
- 恩賜賞を受賞する。(二回目)
- 東京大学医学部長、東京大学伝染病研究所教授となる。
- 日本ガン学会会長になる。
- 十一月三日、文化勲章を受章する。
- 日本病理学会会長となる。
- イタリアのベルジア大学より学位を受ける。
- 藤原賞を受賞する。
- ガン研究会研究所長になる。
- 日本学術会議副会長となる。
- 浅川町名誉町民になる。
- 東京大学名誉教授、学士院会員となる。
- 日本医学協会会長となる。
- 国語審議会委員になる。
- 「漢字かなまじり文」の大切さをのべる。
- 国際ガン会議会長として活躍する。
- イタリアミラノ大学より名誉学位をおくられる。
- 四月二十七日、七十歳で生涯をとじる。
- 勲一等旭日大綬章を受ける。